

徳島県総合計画審議会 会議録

1. 日時 令和4年11月1日(火) 午後2時15分から午後4時15分

2. 場所 パークウエストーンホテル

3. 出席者(委員44名中オンラインを含め30名出席)

(1) 委員

山中英生会長、中央子副会長、金貞均副会長、青木正繁委員、大森千夏委員、影治信良委員、唐崎(檜)千尋委員、来田美晴委員、久米清美委員、小谷憲市委員、小林通伸委員、近藤洋祐委員、榊野千秋委員、齒朶山加代委員、瀬尾規子委員、高井正明委員、高橋啓子委員、近森由記子委員、林好史委員、布川徹委員、藤田晶子委員、松浦ひろみ委員、松尾彩委員、松崎美穂子委員、真鍋恵美子委員、真鍋浩章委員、三谷茂樹委員、山上敦子委員、吉尾さだえ委員、渡邊朋美委員

(2) 県

飯泉知事、各部局副部長 ほか

4. 議題

(1) 新たな総合計画「長期ビジョン」(骨子案)及び「中期プラン」(イメージ)について

(2) その他

<配布資料>

資料1 新たな総合計画に係る県民等意見聴取の取組み

資料2 新たな総合計画「長期ビジョン」構成案

資料3 新たな総合計画「長期ビジョン」(骨子案)・「中期プラン」(イメージ)

参考資料1 新たな総合計画の策定方針

参考資料2 新総合計画策定スケジュール

参考資料3 「南部圏域部会」の開催結果概要について

参考資料4 「西部圏域部会」の開催結果概要について

5. 議事録

(1) 事務局から「新たな総合計画に係る県民等意見聴取の取組み」及び「新たな総合計画『長期ビジョン』(骨子案)及び『中期プラン』(イメージ)」について

資料1・2・3、参考資料1・2により説明

(2) 「未知への挑戦」推進部会 金部会長より同部会の審議内容について説明

(3) 意見交換

(山中会長)

ありがとうございます。それでは、ただ今、金副会長から御報告いただいた部会での議論等を踏まえた骨子案ですね。特にこの資料2の骨子案になるかと思いますが、資料の3、それから中期プランのイメージという資料3、この内容について、皆さんから御議論をしていきたいと思います。

意見交換の時間ですけれども、終了時間が4時15分となっております。現在、2時45分ぐらいですので1時間半ということですが、最後に、知事から少しコメントをいただきたいと思いますので、4時頃を目処に意見交換を終了したいと思いますので、なるべく簡潔に御議論をしていただければと思います。そのあと、事務局から少し御連絡がございまして、4時10分には、終わりたいと思っております。

それではどなたでも結構ですので。どうぞ、じゃあ、青木さん。

(青木委員)

青木でございます。どうぞよろしくお願いたします。

事務局さんや金副会長の方からも説明があったんですけども、今年度も対話集会、新未来セッションNEO・2022を開催していただきまして、本当にありがとうございました。参加させていただいて、やはり若者の意見を聞くこと。そして、先ほど報告にもありましたが、知ることですね。若い世代の方が県政施策、こうやりたいんだといったことを知ること。それが、今回、一番重点を置いて対話集会をさせていただきました。

その中でも、先ほどの報告にもございましたが、やはり若い方々の意見を皆さん、しっかり見て下さいね。実をいうと、この資料1の4からの部分ですね。この一つ一つ、あらゆる分野がありますので、各分野の一つ一つをしっかりと、一つでも県政施策に反映することが、やはりこれからの未来を創る徳島の若い世代の方の希望であり、それが思いなんです。それを、やっぱりしっかりと入れていかないと、徳島に残れ、徳島はいいよといっても県外へ出てしまう、帰ってこない、そういうふうになってしまう。だからこそ、しっかりと次の計画の案には一つでも多くの施策を入れてほしいというのが、私の切なる願いでございます。

また、その中でも、先ほども言っていただきましたが、新未来セッションNEO、もうずっとやらせていただいておりますが、次はフィードバック型に変えていくような形。これこれこうなったからこういうふうに反映したよといったような見える形じゃないと、学生の皆さんも「意見は言ったけど、これ、大人の世界でどうにかなったんだろう」といったような形では、やはりついては来ません。若い方々に対しても、しっかりと丁寧にフィードバックする形を、これからも教育、また地元愛、そして人権教育、そして、さらには、多かったのが交通インフラの部分ですね。これは大人の社会もそうなんですけれども、今、大変注目を浴びております。やはりその辺り、インフラ整備の辺りはしっかりと御議論していく。そして、未来へある形を示していくといった施策は必要であろうと考えてございます。

もう1点は、南部圏域の部会長も務めさせていただきましたので、南部からは一つだけ報告させていただきます。南部圏域、県南のほうを代表して発言をさせていただきますと、やはり人口減少と防災面ですね。もう、それをしっかりと今後の施策に入れてほしい。それとインフラ整備、南部の高速道路の整備は、非常に切なる願いだと考えてございますので、その点を県政施策の方にも入れてほしいと思っております。

最後にもう1点だけ。この資料の2、新たな総合計画の長期ビジョン編の構成案の中の中心にあります。今日も私、バッジをつけておりますが、先ほど、知事の挨拶にもございました。やっぱり一番近くの大きな、国を挙げてのイベントといえば大阪・関西万博しかないんです。やはり、関西広域連合に所属する徳島県としての誘致、そして、いろんな関わり、パビリオン、また、ITを使ったいろんな取組がされております。今度は、逆にそれに乗っていく。で、一つだけ、ポイントは県内で盛り上げないと、いくらいいんだ、いいんだといっても、そういう形じゃなくて、もう少し、県民みんなに見える形でのPR、その辺をしっかりと施策の方へ入れていっていただきたい。そのように考えてございます。発言は以上でございます。

(山中会長)

ありがとうございます。特にさっきおっしゃっていたフィードバックですかね。何か対話みたいな感じかと思えますけれども、そういうやり取りができるような環境が必要だという御意見、確かにそうかなと思えました。

他に、いかがでしょうか。じゃあ、林委員。

(林委員)

委員の林です。よろしく申し上げます。いろいろと骨子等、作成ありがとうございました。青木委員さんからも話があったんですけども、大阪・関西万博に向けてというところで、私の関係しているプロジェクトが二つありまして、情報共有とまたお願いというところをお伝えできればと思います。関わっているプロジェクトといいますと、一つは徳島eスポーツ協会というところと、もう一つはプラット・アート・プロジェクトといいまして、障がいのある方も、ない方も参画できるアート展を開催しております。

eスポーツにつきましては、知事をはじめ、徳島県のほうが率先して開催していただいていることによりまして、先ほどの資料の中にも先進的な取組ということで入っていたんですけども、コロナ禍で少し水面下に潜ってはいたんですけど、ずっと継続的に活動はしております。先日、アミコのほうにeスポーツの拠点も、デジタルスタジオも作っていただいて、そちら、本当に若い方が、なかなか駅前だったり、アミコに行く機会がなかったんですけども、実際に行ってみると、高校生だったり小学生が、本当に、かなりにぎわってまして、小学生と中高生が横並びで、パソコンで対戦をしていると。本当にDXにもつながるような光景ができてきております。

10月のマチ★アソビでは、やはり人が集まらなくなっている状況にも関わらず、e

スポーツのブースにはかなり長蛇の列ができていているということで、やはりいいコンテンツがあると、人はちゃんと来るのだなと思っております。11月にはeスポーツ協会の主催で、eスポーツの対戦会であったり、各空き店舗、商店街の活性化という話もちろ中にはあったんですけども、東新町の空き店舗を、大学さんであったり高校さんに埋めていただいて、プログラミング体験、ゲームを作るという体験をして、デジタル化であったり、デジタルトランスフォーメーションにつなげていこうというところで、楽しみながら次世代を担っていく人材になってほしいという思いも込めまして、そのようなものが開かれる予定になっております。こちらは先ほど、青木委員からも大阪・関西万博に向けて、徳島で盛り上がっているものというところであれば、非常に、全国的にも盛り上がっていますし、徳島でも非常に盛り上がっているの、つなげていただければありがたいなと思っていますところでは。

続いて、アート展につきましては、今日も阿南のほうに、内閣府の方がちょうどヒアリングに来ていただきまして、オリ・パラのあとが、やはりパラリンピックのほうも、競技が若干、盛り下がりがつつあるんですけども、やはり、今後どうしていくかというところで、プラット・アートとしては、大阪・関西万博のチャレンジ事業というのを、県に公募いただいたんですけども、30個の中から七つ選んでいただいて、今、走り出しているところなんですけども、非常に高い評価をいただいておりますので、新しいものを生み出して発信していくというのも大事なところなんですけれども、先ほどありました人権教育だったり、ダイバーシティにつながり、また、この計画の中にも、アートを観光につなげていくなどの話もあるんですけども、本当に誰でも参加できるアート展になっておりますので、また、そういうものを徳島の魅力として一緒に発信していただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

(山中会長)

ありがとうございます。eスポーツの活用と障がい者のアートの話がありました。両方とも共通するのは、感動を共有するというんですかね。そういう取組みたいなものがすごく大切だと感じました。

他、いかがでしょうか。じゃあ、布川さん。

(布川委員)

中央会の布川です。いつもお世話になっております。非常に素晴らしい案をまとめていただきまして、事務局の方、本当にお疲れ様でした。この中で、私がかねがね思っているんですけど、若い人が都会に出て行くっていう話ですね。徳島に残ってほしい。そういう話をよく皆さん、されるんですけど、やっぱり若い人が都会に出るというのは自然な考えというか、自然な方向だと思うんですよね。もちろん、徳島に残ってくれる人はそれでいいんですけど、都会に行くと、世界に行くと、そしてまた徳島に帰ってくる。それが、やっぱり一番じゃないかなと。都会でいろんな、徳島で見えないようなことが見えたり、世界

へ行って、日本のこと、徳島のことが見えてくるって、そういうことがあると思うんですよね。ですから、あまり小さくならないで、いろんなところへ行って、本当に勉強して、経験して、そういう人が徳島に帰ってこられるような、そういう県になってほしいなというのが私の考えですね。最近、特に、当社なんかでも県外の方が就職で来たり、それから、海外の人も来るんですね。そういうふうに、徳島って外から見た時にいいところもいっぱいあるし、そのいいところをやっぱり、どんどん発信していかないといけない。

それから、よく話を聞くのに、徳島って、何かもう全然魅力がない、魅力度調査で全国四十何番目とかね。そういうネガティブな意見を言う方ってすごくいるんです。それはそれで、話のネタではいいかもしれませんが、やっぱりもっともっと、我々が徳島の魅力、良いところを子どもたちとか、それから他県の人にどんどんアピールすることによって、若い人がまた帰ってきたり、それから、新たな人が徳島に来てくれるんじゃないかなと思っていますので、そういうふうに、皆さんも一緒にそういう活動をしていけたらいいんじゃないかなと思っています。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。私どもの大学でも、還流とって、出ていった学生を戻してくるというプロジェクトを何とか考えたらと思います。非常に心強い御意見をいただきましてありがとうございます。

オンラインで来田さんが確か手を上げておられたようでした。来田さん、どうぞ。

(来田委員)

よろしくお願ひします。先ほども出されていた、この徳島県に関する高校生、大学生アンケート結果が、私はちょっと興味深かったです。若い人たちが徳島県に定住した一番の理由が、住み慣れているとか、人のつながりがあるという、経済的な理由というよりもちょっと心理的な理由というところがとても興味深くて、例えば最近、近所の女性から聞いた話ですが、息子さんが地元を離れて、都会の大学を出て就職し、数年働いたあとに、結局、今は徳島に戻って来て、徳島市内に仕事を見つけて通勤しているというお話も聞きます。

若い世代の価値観というのが、ちょっと最近は変わってきているのではないかというのが私の考えで、仕事ももちろん大事なんですけど、やっぱりプライベートを充実させたいという若い世代がすごく多くなってきていて、やっぱり土日祝日、しっかり休んでプライベートを充実させたいという意見もよく聞きます。なので、仕事をして生活するうえで、単にお金を稼ぐという以上に、やっぱり地域への愛着とか人と人とのつながりが重要であることに、このアンケート結果を見ても気づかされたような気がします。なので、若い世代が都会に出て、しかし、また戻ってきたいと思った時に、やっぱりすんなりと戻れる行政サービスももちろんのこと、地域産業の充実とか、あとはやっぱり共助、共生の意識というか、住人同士の関わりを活性化するような、そういう行政側の支援というのが、土台、

基礎づくりが今後、大事になってくるのではないかと思います。

あともう一つですが、若い世代が将来希望する仕事で、やっぱり農業、林業がちょっと低いと思うのが残念というか、危機感でもあります。やっぱり徳島県は豊かな自然環境や、肥沃で広大なこの土地を活かせるというのは徳島県の強みであり、今、先ほど、知事さんのお話もありましたけど、インフレなんかでも、海外からの輸入に頼ってきた食糧や木材とかも、国内の農産物への需要に今、変わってきているという話も聞いています。なので、やっぱり徳島県は農業、林業とかも高い技術を持って、一次産業の土台として、都会への重要な供給地であるということに、まずは県民が自己肯定感を持つというか、それを誇りに思うということは大事だと思っています。そのためには、やっぱり若い世代はもちろん、現在、一次産業に関わっている人たちが価値ある仕事をしているというような、実感できるような行政側の仕組みづくりというか、支援が大事だと思っています。よろしくお願いします。

(山中会長)

ありがとうございます。引き続き、若者の帰ってくる施策、これについての御意見がありました。われわれも、出て行った学生というか、県外の大学にいる学生を県内の企業とつなげるというインターンシップを、県の機関の人と始めております。その話は、実は高校の時に同級生4人で、違う東京の大学に皆ばらばらに行くんだけど、必ず帰って来ようという約束をして、別れて、ちゃんと4人とも帰ってきたみたいな話がありまして、是非、そういうのをやってほしいなと思って、こっちに帰ってくる時にちゃんと就職先を探せるような仕組み。意外に、東京に行っちゃうと上手く探せないんですね。そういうのを取り入れることをしております。御指摘ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。どうぞ、三谷さん。

(三谷委員)

JAグループを代表して参加をさせていただいております三谷でございます。今、我々が申し上げないといけないような貴重な御意見をおっしゃっていただきました。我々も、課題をもう実感しているところです。食糧安全保障、先般、我々グループがシンポジウムをさせていただきましたが、大きな課題、危機の一つでございます。その中で、本県の農業、水産業、一次産業が厳しい状況、御認識のとおりであります。農業面では若い、新たな担い手を迎えたりするような一つの手法として、新たな産地、我々JAグループとしてはいわゆる施設園芸団地、それを県の御支援をいただいて、是非ともやりたいということをお願いを申し上げます。

資料1の5ですね、右から2番目の下から2行目にあります。どなたかがいっておりますが、その職業で生活できる人を増やすべき。農業はなかなか所得ベースが厳しい、これは現実ですが、若い人が、例えば農業でちゃんと子育てして生活できるような環境ということで、我々の組織も努力していきますが、県につきましても、十分御支援いただきたい

ということをお願いを申し上げます。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。先ほど、来田委員さんからもでました一次産業ですね、二次も入るかもしれませんが、一次産業の、いろんなどころへの就労機会といたしますか、そこで暮らしていけるような施策が重要という、御指摘のとおりです。六次化などもいろいろ進めていただいていますし、そういう試みもあるし、今、おっしゃったような、産地としての施設園芸団地ですか。きゅうりタウン構想みたいなやつですかね。そういうものの支援をどんどん進めていきたいというお話だったと思います。

他、いかがでしょうか。どうぞ、瀬尾さん。

(瀬尾委員)

瀬尾と申します。徳島県女性協議会の会長を6年務めましたその関係で、男女共同参画について語りたいと思います。参考資料4のところで、西部圏域部会の中、この7番に男女共同参画について御意見を書いていただいております。私の思うとおり、ぼっちり書いていただいております。それで、前のプランの中に、男女共同参画立県とくしまの飛躍と、DV・性暴力対策の推進が掲げられておりましたので、是非とも、次回もこういうところを強めていただきたいと思います。

ちょっと重たい話になりますがジェンダー・バックラッシュについてお話したいと思います。2005年12月に、男女共同参画基本計画（第2次）が提示されたんですが、新聞でも報道されておりますが、バックラッシュ側の圧力、ご存知のとおり、山谷えり子議員とか安倍晋三議員です。こういう人たちが中心になってかなり圧力を、私も活動しておりましたが受けました。これを乗り越えて参りました。2006年1月に各都道府県と政令指定都市の男女共同参画担当課へ、ジェンダーフリーについて慎重に扱えというような指示、文書が送られております。

で、今、旧統一教会と政府との関係が明らかになりまして、あの時、何でバッシングを受けたんだろうということが全国民にわかるようになりました。本当に、活動家としてうれしい限りです。男女共同参画社会づくりにブレーキがかけられた実態が明らかになって、安倍元首相が亡くなったことはとても悲しいことなのですが、実はそういう事情がありました。しかし、飯泉知事が県民環境部長の時代に、勇気を持って、すばらしい徳島県条例を作ってくださいまして、大沢真理さん、バッシング側がとても嫌う大学の先生なんかも呼んでいただいて、すばらしい条例を作ってくださいました。飯泉知事はその思いが強いと思って、大いに応援させていただいております。そういう事情がありまして、最近、そういうことをどんどん、こういう場で語りたいたいと思って、今、マイクを取っております。

徳島県女性協議会では、県議会をはじめ、県内全ての市町村議会に働きかけまして、女性差別撤廃条約の選択議定書の批准に向けての意見書を国に提出することができました。国内では、大阪に次いで2番目です。徳島の女性の底力です。今こそ選択的夫婦別姓、こ

れ、実は全国で初めて、最初に反対したのが徳島県議会でした。もうお亡くなりになられた議員さんたちが力を入れて、これに反対されました。今こそ、徳島からこういう選択的夫婦別姓とか男女混合名簿など、率先して男女共同参画社会づくりを進める徳島モデルというのをアピールしていただきたいなと思います。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。男女共同参画に関するいくつかの御指摘をいただきました。我々もいろいろ、サポートセンターとかを作って、男女共同参画型の大学にしようという取組をしております。ただ、おっしゃるように、どちらかというとな性の教育が大切だなと私も感じたところです。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。真鍋委員。

(真鍋恵美子委員)

真鍋です。私の方からは交通ネットワークについてお話をさせていただきたいと思います。御意見をいろいろ集めていただいた中で、四国新幹線という言葉がところどころに出ております。それと、鉄道というか、公共交通機関の本数の維持、利便性を高めてほしいというところが多いかなと思います。私も、公共交通機関の会社の役員をしておりますので、この辺り、いろいろと議論をしているところなんですけれども、ローカル線の維持というところが、これから行政といろいろと議論をされて、地域とともに維持する方向で話がされていくんだと思います。

それと、セットで高速鉄道ですね。四国新幹線、やっぱりセットで考えていかないと、なかなか維持は難しいというふうに私は思っております。なので、2060年の将来像の1の5の資料のところはこの言葉を入れていただいて、私はすごくありがたいなと思います。新幹線のある、最近、金沢だとか長崎、熊本、鹿児島の開発というのは、見てすごく、10年前に行かれて、最近行かれると全然違うということはやっぱり見てとれると思いますので、徳島のまちづくり、ビジョンというか、将来のまちづくりのビジョンをしっかり持って、この辺りも含めて考えていくべきだと思います。先ほどから皆さんの御意見で、若者が帰ってきてほしいというところがありますけれども、やっぱりまちづくりをしっかりしていると帰ってくると思いますので、その辺り、しっかり計画に含めて、1歩1歩、進んでいけたらなというふうに思っております。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。交通ネットワークの御議論、私も専門です。おそらく新幹線がいわゆるカーボンニュートラルを進めるうえでも、結構、重要な鍵になるといわれています。電気自動車とか、いろいろ言われていますけれども、結局は、エネルギー効率を考えるとそれに勝つような高速鉄道というのがかなり重要なのではないだろうかというような議論がわれわれの分野でも進んでおります。是非とも、もう少しその辺の関心を深めていただければなと思ってお聞きしました。

他、いかがでしょうか。どうぞ、先、山上さん、お願いします。

(山上委員)

県医師会の山上です。資料でも拝見しましたが、本当に皆さん、徳島が大好きだなんて、すばらしい提案ばかりで、これを見ると徳島の未来は明るいなと思うところがございます。先ほどにも、御意見でもございましたように、徳島には、実はいいものがいっぱいあるのに気がついていないとか、また、当たり前としていろいろな取組がされているのがあるのではないかと感じているところなんです。そこで、やはりちょっと、実は医療も頑張っているということを少しだけPRさせていただけたらと思います。

徳島県の、コロナへの医療連携については、全国に誇れるものというふうに考えております。県の当局と医師会がきめ細かく連絡を取り合い、強力でタッグを組んで、令和2年5月初めから地域外来・検査センターを開所しました。同年8月には、県の宿泊療養施設の運用に県医師会が協力し、患者管理の統括をしています。

第4波で自宅療養者が急激に増加した時には、令和3年5月2日より自宅療養支援サポート医師制度を開始しました。これは、自宅療養者に対して電話などのオンライン診療や、必要に応じて往診を行うなどの健康観察支援を行うもので、自宅療養患者の約6割弱をサポートしてきました。現在、サポート医数は387人が登録しており、第7波が猛威をふるったこの8月には、138のサポート医療機関で、1万4,854回の電話診療、また、22の医療機関が、延べ162回の往診を行っております。県の医療機関は600余りでございますので、多くの会員が登録しているということです。サポート医はメーリングリストにて、感染の状況や治療法などについての情報交換も行っています。また、薬剤師会、看護協会には大変ご協力をいただいております。8月には訪問看護の6施設から計340回の訪問をしております。これらの取組は全国的にも先進的でありまして、今後、またあるだろうといわれている第8波に向けても、また、県のほうには指揮を取っていただいて、皆、協力して、オール徳島で頑張っていきたいと思っております。

またDXについてですが、これについては、DX化がやっぱり医療界では遅れているといわれているんですけども、その入り口、医療DXの入り口とされているオンライン資格確認、最近、マイナンバーカードと保険証の一体化ということで話題になってきていますが、これは医療機関の窓口などに顔認証付きカードリーダーを設置して、マイナンバーカードと照合し、本人確認をするというのがオンライン資格確認なんですけど、これが来年4月に義務化されるということで、今、急ピッチで準備を進めています。ただ、徳島県は、全国の進捗状況が厚労省のホームページで公表されるんですけど、非常に低順位であります。といいますのも、会員の皆さんにアンケートし、意見を聞きますと、県内にこれに対応できる、工事できる業者があまりない。また、来年4月までという急な展開になっておりますので、事業者も混み合う状況で、なかなか設置が進まないということがあるということです。この件に限らずなんですけれども、DXを進めるためにはIT関連事業者の確保、ITの人材の育成、それから、今いる人材に活躍してもらわないといけないので、学び直しを

県内でも進めていただけないものかと思えます。

また、パブリックコメントの7番のところに、「何でもわからないことを聞ける窓口がある」という御意見がありましたが、まさにそのとおりで、信頼できるサポートセンターがあれば、日常生活でもその一歩が踏み出しやすいと思います。きめ細かな取組で、徳島がDX 日本一の県になっていくように頑張りませんか、と思います。これはプランの中では安全・安心で成長する徳島というところの意見でございます。よろしく願いいたします。

(山中会長)

ありがとうございます。徳島県、コロナの対応、大変しっかりやっていただいたということでお伺いしました。コロナの、本当に私はこういう、変ないい方ですけど田舎に住んでいてよかったなとつくづく感じました。友達なんかで全然電話ができなかった、つながらなかったみたいな話を聞いていると、うちの学生はさっさと、ちゃんと療養施設に入れてもらっていましたからね。よかったなと思って、感謝したんですけど、普段からいろいろ苦労されたようなという話を伺いました。ありがとうございます。

DX に関してもおっしゃるとおり、いろんところで話が出ておりますし、大学もそれについて何らかの貢献をしようと、今、いろいろ苦心惨憺しております。教育機関としても重要な役目を果たしてしていきたいなと感じたお話でした。松崎さんのほうから願います。

(松崎委員)

子育て支援ネットワークとくしまの松崎です。私たちは子育て支援の活動だけでなく、昨年10月24日から徳島木のおもちゃ美術館のフロア業務も23名で担当させて頂いております。指定管理はあわわさんです。

お客様から「徳島はすごいなあ」「徳島やるなあ」「本当にここ徳島なの？」と言われるぐらい、人気はまだまだ上昇中です。平日の入館者は200~300人、日曜は800~1,000人が利用され、1年たたない頃には目標の10万人達成。10月中旬には14万人を超えました。昨年の5月3日に1,306人と最多だったのですが、今年の10月9日には1,319人と最多更新となり、スタッフ一同驚いています。

県外で一番多く御利用されているのは香川県、2番目に兵庫県、3番目に大阪府と和歌山県が並んでいます。高知県、愛媛県、関東や九州からもたくさん来られています。

先週東京から来られたシニアのお客様からのメッセージを御紹介させていただきます。「見ているだけではわからない奥の深さとか、地域性や伝統を活かして丹念に作り込まれた、まさに作品群。改めて木のおもちゃ美術館の素晴らしさに感動致しました。」シニアの方、カップル、大人の方のみの御利用の場合は、スタッフやボランティアで活動して下さっているおもちゃ学芸員さんに、ミニ館内ツアーをして頂き丁寧に対応を、と努めています。

県外の方の宿泊先を尋ねると、主に淡路島や鳴門が多いです。関西方面の方によく尋ね

られるのが、「この辺りにキャンプ場はありませんか。キャンプ場があれば連泊するのに」と。「徳島はおもしろい」と言うてくださる方が明らかに増えています。

そこでおもちゃ学芸員さんと考えたのは、上板に和三盆、板野に温泉があり、藍住で藍染め体験ができる。鳴門市で大谷焼、松茂町や阿波十郎兵衛屋敷で人形浄瑠璃に触れる。あすたむらんど周辺、板野郡だけでも徳島の魅力を満喫してもらえる体験コースができるのではと。

木のおもちゃ美術館から徳島の自然の美しさ、森林、木育、伝統文化を発信し、県内で宿泊して頂くことで、徳島の魅力を深く知って頂けたら、何度でも来て頂き、来春オープンする那賀町山のおもちゃ美術館とも連携できるのではと考えています。

今までは「徳島は何もない。阿波おどりだけ」と言われていたけれど、徳島木のおもちゃ美術館が出来たことで、県外からの子育てファミリーや、木のおもちゃ美術館ファンの大人やカップルなど、多くの方が来てくださって「すごい」「徳島素晴らしい」と歓声をあげてくださる中で仕事をさせて頂き、スタッフ一同嬉しく2年目に邁進しているところです。

嬉しい報告をさせていただきました。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。大変心強い御意見でした。私も今、実は自転車の観光についていろんな取組をしているんですけども、おっしゃるような目玉施設、今度県が頑張ってるようですが、大鳴門橋の自転車道、発表していただいていますけれども、それも確認しながら、周りで、いろんな形でサービスを立ち上げていかないと広がっていかないねという話をしています。だから、せっかく来てくれた人が、例えばおもちゃを作る体験とか、それから、おっしゃるキャンプとか、いろんなサービスにつながっていくような、何かそういう仕掛けを作る、大変重要だとお聞きしました。御提案を是非オープンにさせていただいて、それで一儲けしようみたいな若者が出てくるような話があればいいかなと思ってお聞きしました。

他、いかがでしょうか。まず、近森さんから。

(近森委員)

徳島県青年国際交流機構の近森です。いろいろと、資料を拝見させていただきました。私がちょっと目に止まったものが、資料1の5にあります、一番左から2番目、上から2番目の教育のところに、ICTを活用したオンライン授業が当たり前になっているという御意見を集約いただいているかと思うんですけど、本当に、私もそうだなというふうに思いました。タイトルを見ますと、2060年、2030年までの将来像の取組とあるんですけども、是非、これを、この長期ビジョンへの、構成案の中に入れていただきたいと（思っております。こちらのほうにも、誰一人取り残されないデジタル社会の実現というところで、時代の潮流の5番に書いてございますけれども、本当にこのコロナになってからの、この徳

島を含めて全世界がデジタル化というか、オンラインというものにすごく助けられたと思っております。

私自身も、活動の中で、今まででしたら対面で交流するのが当たり前だった状態から、一切、海外の方と交流が、対面でできなくなりました。海外の方も来られませんし、私も海外旅行に行くことができなくなってしまったんですけども、今、少しずつ緩和はされてきているんですが、この流れは是非止めないで、さらにDXだったり、デジタル化というものを進めていただきたいと思います。とにかく戻ってしまうと、本当に大変な思いをした、このピンチをチャンスに活かすっていうところの真逆をいってしまうので、是非、ここはデジタル化、DX化というものを盛り込んでいただきたいと思いますと思っております。

そして、この教育だけではなくて、今、企業の方にもテレワークだったり、リモートワークとして、この住んでいる方にとっても、自治体での手続きですとか、いろいろと紙でやらないといけないもの、実際行かないといけないものはあるんですけども、できるところだけは、少しずつでもそういうふうなデジタル化、DX化を進めていただけるといいと思いました。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。大学もオンライン授業がたくさん増えていまして、教師にはあまり評価が高くないです。何か、やっぱり教師はたくさんの学生を見て話したいみたいなんですけども。でも学生は、先生との距離はすごく近づくみたいな話が出てきています。なので、そういう、ちゃんと聞いたほうがいいような感覚というのは、すごくオンラインが向いてるんだなど。対話しないとあかん場合は面と向かって、顔を見ながらやりたいなって、少し少人数は対面でやって、大人数はオンラインで、みたいなことに、今、動きが定着しつつありますので、おっしゃるとおりの方向に進めるかなと思いました。

先にこちら、齒朶山さん。

(齒朶山委員)

失礼いたします。私のほうから三つ、意見を申し上げさせていただきたいと思います。ちょっと私、今、闘病中ですので、声がかすれたり、出にくくなっておりますので、お聞きづらいかと思いますけど、お聞きいただきたいと思います。

まず、交通の関係ですけど、どのぐらい前でしたっけね。新幹線の話が、この総合計画審議会の中で出て参りました。今日、お越しにいただいている若手の青木委員が新幹線をということでお話されて、「え、四国に新幹線？」というふうに驚いた記憶があるんですが、まだ、残念ながら実現はしていません。逆に、やっぱり人口減少だとか、特に田舎のほうへ行くと交通機関がなくなっていくという。飯泉知事も頑張っていて、廃線にならないようないろんな取組や、病院なんかも医師がいなかったりということでご努力いただいているんですけど。

今、2060年を目指してということでお話が出ているんですが、私は、2060年になったら

生きてないと確実に思います。ただ、今、自分の生活している10年先だとか、10年先、生きられるかどうかというのがありますが、そうした時に、実は、やっぱり病気をするまで、どこへでも私、車で行っていたんです。1人でも運転して行っていましたけれど、それがいいかどうかは別問題として。でも、だんだんと体が悪くなってくると、やっぱり運転にも自信がなくなってきました。そうすると、交通機関を頼らなければならなくなるんですが、その交通機関が、残念ながら、田舎へ行くほど整っていません。

つい最近も、ちょっと話が長くなって申し訳ないんですが、実は、部落解放同盟の中央本部のほうで、水平社、今年が100周年ということで、島崎藤村原作の「破戒」という映画を作りまして、10月31日にも徳島新聞で紹介をしていただきましたけれど。11月3日から、ようやくイオン徳島で上映されるようになりました。その上映を巡って本部のほうで、いろんところで上映しようということで話し合いをしました。せめて四国で2か所ぐらい上映できないかな。そうすると近辺から行けるだろうという話なんですね。その意見を出される方はもちろん近畿圏だとか、関東圏の方ですよ。そういうところであれば、県外で映画が上映されても、電車や交通機関がいっぱいありますから行けます。そういう感覚で四国を見て、四国で2か所ぐらいやってくれたらいいだろう。私は、とんでもないって、2時間の映画を見に行くのに4時間も5時間もかけて誰が行くんでしょっていう、そんな話もしたことがあります。それだけに交通機関が整っていない。年を取れば取るほど、これからどうなっていくんだろうという、そういう心配があります。そんなところを是非とも解決できるような、そういう計画を私たちも考えていかななくてはならないな。皆さんにも考えていただきたいな。障がいを抱えていると、ますます、非常に移動をするのが難しくなります。障害者差別解消推進法も出ていますけれども、残念ながら、まだ十分には整っていません。そういう意味で、やっぱり交通機関、本当に困っている人たちが助かっていくような交通機関を考えていただきたいなということを、一つ思います。

それから、資料の中に育休を推進していこう。男女平等ですから、男女も取っていきましょう。それが優良な企業について、推奨していくためのいろんな助成制度を作ろうということを入れていただいているんですが、実は、徳島ってそんなに大きな企業はありません。どちらかというと零細企業のほうがほとんどです。そこで育休を取りたいということになりましたら、男女含めて代わりの方がいなかったりということで、小さいところほど困るんですね。そういう制度がいきわたらない。そういう意味では、本当に小さいところが、男女ともに育休が取りたい、介護休暇が取れたりっていうことをどうしていくのかという、その援助方法を、支援方法を考えていただけたらなと思います。

それと、今日感じたことですが、委員の何人かの皆さんから人権教育という言葉が発せられました。これ、振り返ってみましたら、20年前ぐらいの審議会の中では、人権教育という言葉は一度も出ませんでした。私、ずっと委員を務めさせていただいていますが、そういう意味で、皆さんの意見から人権教育という言葉が聞かれるようになってすばらしいなと思っていますが、残念ながらコロナが、2019年でしたかね、徳島で初めてコロナの感染者が出た時に、感染された方にもすごいバッシングがありましたし、県外

の車を見たら傷つけるというようなこともありました。そういうことも含めてですけど、インターネット上で人を傷つけるような書き込みがたくさんされている。知事に率先していただいて、モニタリングもしていただいて削除するような、そういう取組をしていただいていますけれど、書くほうが巧妙になってきて、なかなか削除ができない。これはやっぱり、人に見られていないところで自分が自由に意見をいう、そこに差別意識、人権を侵害する意識に歯止めがかけられないという、そういう意味では、人権教育をどうやっていくのか、やっぱりしっかりとした人権教育をしていかないと、温かな、誰一人取りこぼさない徳島であろうということを、この計画の中では目指していますけれど、もう一度、人権教育というものを基本的に見直していただいて、それこそ、就学前からはじまって、きちんとした、積み上げられていく人権教育が必要ではないかと思います。

(山中会長)

ちょっとお時間が。

(齒染山委員)

ありがとうございます。以上です。

(山中会長)

いいですか。すみません。3点いただきました。まずは交通の、特に運転をやめるような方々に対するサービスをちゃんと充実させる。これも非常に悩ましい、全国的な課題ですけれども、これに取り組んでいく必要があるという御指摘でした。それから、育児休暇ですね。おっしゃるとおり、なかなか取りづらい状況というのは、ただでさえ人手が足りない状況のなかで御指摘確かだと思いました。それと、御指摘によると、ネット社会における人権教育ですね。これも全国的な課題ですけれども、徳島なりの取組を考えていただけたらと思います。

唐崎さん、お願いします。

(唐崎委員)

阿波民俗芸能文化保存会の唐崎です。本日はありがとうございます。パブリックコメントの、本当に幅広い御意見というのは、とても興味深く参考になります。本当に事務局の方々も、皆さん、ありがとうございました。2点です。

民俗芸能ということで、私、民俗芸能に関わっているんですけども、民俗芸能は別に特別なものではなくて、今、ここにいらっしゃる委員の方々、事務局、皆様、それぞれの足元にある文化だということを、また、何かの折に、ちょっとコロナのあとでお祭りも復活してきていますし、そういう時に自分の足元の文化ということを確認というか、ときどき思い出していただけるといいなと思います。それが、その文化は徳島だけじゃなくて、世界に類を見ない、本当に何百年と続いている文化を持っているものがありますので、そ

ういうものは本当に唯一無二で徳島にしかない、その土地にしかないものなので、それを皆様自身、それぞれの方が誇りに思っただけだと、徳島の若い人たちもそれを誇りに思っというふうな形につながっていくといいな、なんて思っております。将来像の取組の中にもありますが、そういう伝統文化が近代化と融合して何かの形に、新しいものとして生み出されて、また新しい徳島につながっていくのではないかと思いますので、そういうふうには、民俗芸能というものの応援を、それぞれの方が思っただけがいいなと思っております。

もう1点のほうは、新ホールですけれども、新ホール、ハード面に関しては、本当にDX、GX含めてSDGsということで、使いやすく、本当にいろいろな方が障がいがあっても、高齢者の方でも、小さなお子さんでも、お子さん連れでも、いろんな方が気軽に集まれるというものに、ハード面で思っただけだと思います。ソフト面に関しては、社会包摂としての交流施設の面としても、やっぱり人が集まりやすく、そこに行くとなんか楽しいものがある。例えば、パブリックコメントにもありましたけれども、アートを切り口に観光につなげてほしいとか、芸術、文化、スポーツを楽しみながら暮らしていく、そういうもののランドマークとして、ソフト面、新ホールが思っただけだとともううれしいなと思っております。

そのホールを含めて、あと、先ほどの民俗芸能を併せて、また関西万博に打っていけるものが、そこから、若い人からまた生まれてくるのではないかと思います。そのあとの世界につないで発信していけるものが生み出されていくのではないかと思いますので、今後、楽しみにしておりますので、よろしくお願いたします。

(山中会長)

ありがとうございます。伝統芸能についてですね。私も確かに、足元の文化とおっしゃっていたので、共同意識というんですかね。皆さんがこの歴史に、一緒にやってきたというのを体験する場なんだなと思っお聞きしました。

それと、ホールの社会包摂という言葉を使われておりましたが、ソーシャルインクルージョンというんですか。やっぱり多数の意見を聞く耳というんですかね、対話が常に起きているというような、そういうプロセスなんだと思うんですね。できあがってそれが、完全にできるというのはなかなか難しいと思うので、果敢にずっと、いろんなことに対して親切に対応できるスタッフがちゃんとして、そこで対話が起きているということを皆さんが知ることだと思っうんですね。そういう取組ができるようなふうになればいいなと、私も思いました。

どうぞ、渡邊さん。

(渡邊委員)

神山しづくプロジェクトの渡邊と申します。県外から神山町に移住して8年目の立場からお話を今日、今、私が見えている課題と、それに対する希望を二つずつお話をさせてい

ただきたいと思います。

これからも神山町に住み続けたいと本当に思っています。ただ、今、本当にこの2、3年で大きな問題というか、課題が顕在化しているなというのを毎日感じています。まずはやっぱり、一番大きい高齢化の問題がありますし、それによって、さまざまなしわ寄せというか、不便な面だったりとか、いろんなことが毎日起きていて、それに対処したりという日々を送っています。実際に今、今日も多かったんですが、公共交通が減ったというのは、本当に今、近々でバス、徳バス、減りましたよね。うちも高校生の息子がいるんですけども、実質的に支障が起きています。やっぱり学校に行く、部活が続けられないかもしれないと、今、本当にそういう状況で、どうする、こうするって、今日も迎えに行かないといけないとか、そういうことが起きているんですね。

あとは、やっぱり人が減っていくことによってとか、あと、今の状況、治安が悪化しているというのもすごく感じています。やっぱり神山は田舎で伸び伸びと、変な話、施設もあまりせずというか、鍵も開けっ放しで暮らしているようなところなんですけど、今、バイクの盗難が起きていたりとか、実は私も昨日、自転車を盗まれて、夜、警察に来てもらったりとか、そういうことも起きていて、これは、日本の伸び伸びとしたいところで暮らしていると思う感覚を変えないといけないんじゃないかなというのを、本当にこの数か月で感じている。あとは、道の駅とかで車中泊の方が増えていたりとか、それ自体、いい、悪いというのは一概にはいえないんですけども、本当に近々で結構な圧迫感というか、危機感を感じていたりという暮らしが、実はあります。

そこに対して、それ以外の高齢化の問題で、耕作放棄地が増えているということも一つ、すごくありますし、それによってやっぱり、あと風車の問題も、実は神山、大きくありまして、シカもすごく今年増えています。私たちも移住して、田舎暮らしの中で田んぼをやったり畑をやったりしていますけれども、今年は畑がもう全滅でした。やっぱり全部シカに食べられてしまったというのを、皆さん、対策はされているんですけども、そういうことが今、起きていて、すごくいい場所だと思って引っ越してきた状態が今、少しずつ、少しずついろんな環境の変化によって変わってきているというのが事実あります。

でも、そんな中で、やっぱりいい場所であることは変わらなくて、実際に今、高専の話があったりとか、移住希望者っていうのはすごく増えているんですね。なので、本当に公共でできることっていうのはすごくたくさんあると思うので、お話も出た食糧保障の問題だったりとか、安全保障の問題っていうことで、農業だったりとか、うちの場合は林業分野ですけども、やっぱり今、しづくプロジェクトはもうすぐ10年になるんですけども、県外からも移住者、新卒でうちの職員になりたいって来てくれた若者もいたりするので、やっぱりカッコいい仕事がある、ここでやりたい仕事があるっていうことがあると、やはり皆さん、きちんと情報はキャッチできる状態にはなってきているということがあります。

あとは、教育に対しても、やはり逐一フォローしていただきたいというのがあるんですけども、大きな仕組みではなくて実質的な、小さなことをやっていただきたいなという

のをすごく感じます。すみません、具体的なお話じゃなくて申し訳ないですが。ありがとうございます。

(山中会長)

たくさん現状を指摘いただきまして、非常に興味深い話がいっぱいありました。現実の状態ですね。いわゆる過疎地域という、そういった地域でもこういう状態が起きているということで、いろんな仕組みを見直していく時期にきているという御指摘です。大変、興味深くお聞きしました。

今、あと残り15分ぐらいになっておりまして、30人がおられて13人からお話をいただきました。少し端的に実施して、できるだけ時間を有効に使えたらと思います。

(榊野委員)

森林組合連合会、榊野です。ものの値段が何もかも上がっているんですが、去年と比べると、また下がってきているという状態です。コロナでちょっと厳しい状態になったのが、1年後には、去年の今頃ですが、またウッドショックということで、かなり材が上がってきたんですが、それがまた今年に入ると下がり、元のように戻ってしまいました。それから、長い期間で見ると、平成の初め頃の価格を100としたら、今現在、40ぐらいまで下がっています。半分以下になっているというような状態です。その間でも、県の林業プロジェクトをどんどん進めていただいて、それによって少しずつよくなってきています。それが、コロナでいろいろあったわけですが、我々もそのプロジェクトの目標の達成に少しでも貢献できるようにと、やらなければいけないと思うし、そうやっていくことが若い人も自信を持って働ける林業になると思います。災害に強い山であったり、二酸化炭素の吸収源であったりということで、山の力を発揮できると思いますので、県ではこのプロジェクトをさらに進めてもらいたいと思うし、我々も一生懸命取組んでいきたいと思いますので、コロナの期間でいろいろ乱高下はあったんですが、こういった急激な変化がある時はまた、それへの対応をできる体制というか、そういうものを考えていただけたらと思います。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。おっしゃるとおり、林業というか、森林資源というのは多分、国内化の、どんどんすごい大きな流れの中であって、絶対、国内でやっていかなければいけない産業になるんじゃないかと感じていますので、是非ともいろいろなご指摘をいただきたいと思います。他に、大森さん。

(大森委員)

徳島弁護士会の大森です。私は消費者問題のことについてお話させていただきたいと思っています。成年年齢引き下げが始まりまして、現に、少しずつ問題が表れてきているという

ことをお聞きしております。徳島県は消費者対策についてすごく先進県だと思ひまして、高校生に対して充実した消費者教育をしていただいているということです。ただ、教育というのは1回限りのものではなくて、繰り返し、繰り返し、何度も何度もしないと、1回、その時に知識は上がりますけど、しばらくすると低下してしまうというものですので、継続的な教育というのをこれからも続けていただきたいと思ひます。徳島の消費者教育人材バンクというのがあると思ひますけれども、さらなる活用も進めていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。大学もそれが大変問題になっておりまして、1年生で1回、パワポを見せて先生が話しているだけなんですけれども、それでもやっぱり、いろんなことに問題が起きていますので、是非とも、ご協力いただきたいと思ひます。

他、いかがでしょうか。

(高井委員)

日本野鳥の会徳島県支部の高井と申します。このプランの、資料3の長期ビジョン、中期プランのイメージを拝見させていただいて、長期ビジョンのところの真ん中に、未来へ紡ぐ強靱とくしま、その中の4項目目に、豊かな自然が息づきと書かれているわけですね。これは中期プランのイメージの中の上から4番目、環境、エネルギー、これが恐らく中期的な項目だと思うんですが、この循環継承とくしま戦略、環境、エネルギーっていうのを、資料の1の5で見えますと、資料の1の5の真ん中の段の右側、環境、エネルギーっていうのがあります。ずっと眺めているんですが、長期の目標で、豊かな自然が息づきっていうのにつながるような項目はどれかと探してみたんですね。エネルギーは確かに今、すごく注目されているんですが、恐らく最初の項目、森林の適正管理が図られ、持続的な生物多様性が確保されているという項目だと思うんですが、確かにこの生業というものがどうしても重要なものですから、前に出てきますけれども、こういったところは、森林など自然の適正管理がと書いていただいたほうが、基盤的な生態系というものが一番大事なものですから、それへの、力を抜くことのないような政策としていただけたらありがたいと思っているのが1点です。

もう1点なんですけれども、実は今、すごくホットなニュースになっているのが、お隣の香川県で出た鳥インフルエンザですね。私どもも、鳥インフルエンザが発生したことに伴う野生鳥獣のフォローアップということでお手伝いをさせていただいているところなんですけど、鳥インフルエンザの被害者というのは、養鶏業者の方々だけではなくて、実は野鳥自身が大きな被害者なんです。その一つであるナベヅルという天然記念物があるんですが、これがご存知のように鹿児島県の出水市というところに越冬に参ります。その数が1万を超える数のナベヅルなんです。そのナベヅルが、もしそういった病気にかかる、絶滅の危機になるということで、環境省はそれを分散させる事業を進めているところなん

です。そのナベヅルが選んでくれた土地の一つが実は、環境首都、徳島の自然なんです。吉野川の河川敷にねぐらを取って、そして餌を求めて農地にいつているということが、ここ数年、ずっと続いてきております。ただ、そういった河川敷というところにはいろんな方が入り込んで、ツルのねぐらを侵略してしまっているということが起こっておりまして、是非、そういったきめの細かいところにも配慮をいただけたらと思います。以上です。ありがとうございました。

(山中会長)

ありがとうございました。森林外の自然についての、少しコメントを加えたほうがいいということでありました。ナベヅル等、増えたのでいろんな多様性ですね、そういった御指摘でした。

はい、小谷さん。

(小谷委員)

自主防災組織の小谷です。日頃、自主防災組織の活動に御協力頂きありがとうございます。自主防災組織というとはやはり町内会です。小学校、中学校、高校、シニアは、今さまざまな活動を盛んにされています。20代、30代の若い方が活動する機会が非常に減っています。そして小学校、中学校、高校の防災活動に自主防災組織と一緒に連携する活動機会も非常に減っています。住民皆さんの力が一つになることが必要と思います。可能であれば、合同で連携活動できる訓練が計画できないかと思いますので、御協力よろしくお願い致します。

(山中会長)

ありがとうございます。いろんな参加の世代の偏りというのはいろんなところで起きていますよね。おっしゃるとおりだと思います。PTAの人もなかなかうまく動いていなくて、多分、小学校のお母さん世代というのが、結構、今までそういうのを期待されている方々だったと思うんですけど、その方との連携とか考えていく必要があるという御指摘でした。

(近藤委員)

こんにちは、近藤と申します。私からは2点ございます。

1点目が、資料1のほうの交通ネットワークのところですか。大量輸送システムのお話はされているんですけども、今日、皆様、委員の中からもお話がございましたラストワンマイルの輸送を地域でどのように担保していくかというお話、この観点も非常に大切かと思っております。路線バス等が運行されているエリアでは、例えば経済性の合わない路線ではオンデマンド交通等の新しい交通システムの導入等で人々の、市民の輸送を担保していくということを達成しつつ、一方で、いわゆる有償旅客運送業を営業されている会社様がいらっしやらない地域ですね。交通空白地帯ともいわれる、こういう地域では、例えば

自家用有償運送の制度を活用して、これは何かというと、普通、一般自動車をタクシー同様のサービスに、提供できるようなモデルを作っていこうという取組なんですけれども、この自家用有償運送制度を活用して、地域の方々の移動を担保していくのはいかがだと。それに向けた実証実験等を実施してはいかがかというような考えを持っております。

もう一つが、スタートアップって、起業家支援みたいな領域なんですけれども、一つ、KPIを作るうえでベンチマークにしたほうがいいんじゃないかという地域がございまして、福岡県でございます。こちらが、ちょうど福岡市が2012年にスタートアップ都市宣言という、スタートアップを支援していくという取組を2012年から続けていらっしゃるんですが、ちょうど10年たった今年に調査をした結果、福岡県に本社を置く企業の、過去10年の資金調達額が726億円と、全国で5番目に多い数字でございました。私自身もちょうど7年前に第二創業という形で起業したのですが、やはり福岡県、例えばベンチャー企業の資金調達環境が充実しているとか、将来有望なベンチャー企業を多数排出しているというニュースを見ていたのですが、実体を見てみると、例えばそういった金額を調達しているんですけど、時価総額10億円を上回っている企業は過去10年で41社しかなく、過去10年で創業した企業で上場している企業は1社もいらっしゃらないようです。そういう意味では、今後、徳島県でこのKPIを作るうえでも非常にベンチマークになるような地域ではないかなというところで、KPI作成のうえで参考にしてはいかがかなと思ひまして、御紹介させていただきます。私からは以上です。

(山中会長)

ありがとうございます。ラストワンマイルの、ボランティアの、いわゆるタクシー輸送というんですかね、個別輸送の話、おっしゃるとおりで、今までどうしてもNPOみたいなところがやったり、社協がやったりして、いわゆる配車の業務が結構、鍵になっているというふうには私を感じます。近藤さんも作られたような配車システムですね。あるいはAI化みたいは話とか、そういうのを活用して上手く、運転手を集める工夫はできるかと思ひますから、そういうのを導入するのを少し支援していただくといいかなと思ひます。特に行政、市役所のほうがそういうのを支援していただくといいかなと思ひています。

ベンチャーの話はおっしゃるとおりで、我々、今、実はベンチャーではなくていわゆる融資をもらえるようなビジネスを細かく立ち上げているというのを大学で支援しているんです。そっちのほうはやっぱりそんなにつぶれないんですけれども、ベンチャーはなかなか厳しいです。そういうことをやりたいという若者も実際には増えております。大学の中でも興味を持ち始めている人たちがいますので、是非、いろいろ御支援をいただければなと思ひてお聞きしました。

すみません、あと3分ぐらいになりました。あとお一方ということに。オンラインの方でどなたかおられますか。じゃあ、高橋委員。

(高橋委員)

高橋です。よろしく申し上げます。今回、私、やはり大学に勤めています関係、大学生、高校生のアンケートがすごく気になりました。その中で、徳島県のよくないところで、高校生も大学生も同じようなことを挙げていて、鉄道、交通の便が悪い。それから、市街地に活気がない。観光レジャーが充実していないというようなことが、どちらの高校生、大学生両者に挙がっていたということが、今後の徳島県に移住してもらおうという、条件の中に少し入るのではないかと、すごく思っております。

それから、もう一つ気になったことが、将来、希望する仕事に就いてというところです。高校生はわからないというのが20パーセント。それから、大学生でも15パーセントぐらいが将来の仕事がわかっていない、希望がないというところで、ちょっと不安を感じたところです。やはり、若い人たちが夢を持てる県というか、そういう住みたい県、やはり若い人が楽しめる、先ほどいろんな、徳島にもすごくいいところがあるんだよという、われわれの世代だと、そういうことをたくさん思うかと思うんですが、やはり若い人たちが楽しめる、そういうところをもっともっと必要ではないかなと思いました。

あまり時間がないということなので、以上とさせていただきます。

(山中会長)

わかりました。先ほどの、最初に出てきました若者の定着の中で、考えておいたほうが良いという御指摘をいただきました。おっしゃるとおりでございました。

今、早く終わりましたので、もう一方ぐらい何とかなるんですけども。是非という方、大丈夫ですか。

では知事にお伺いしようと思います。よろしく申し上げます。

(飯泉知事)

今日は本当に多くの皆さん方からさまざまな御意見をいただいたところでありますし、また、若い世代の皆さん方、あとは提案募集型のパブリックコメント、こちらも多く御意見をいただいたところでありますし、それをベースとして作り上げたもの、あるいはその意見を元にして、委員の皆さんからはさまざまな、またご提案をいただいたところでありますし、盛り込めるものについては、当然のことながらしっかりと盛り込む。また、ただ盛り込むだけだと絵に描いた餅になりますので、具体的に、もう今すぐに取り掛からなければならぬものもかなり出てきておりますので、あるいは、もう既に取組んでいるものもあって、まだそれがあまりマスコミなどで伝わっていないといったこともありますので、それぞれ、少しお返しできるものについてお返ししていきたいと思っております。

まずは青木委員さんのほうから、特に新未来セッションNEOの話としてフィードバック型にしてほしいと。おっしゃるとおりですね。ということで、この計画ができあがった場合に、いただいた意見で、ここの部分をこう反映したと。これまでも、実はこちら側サイドとしてはやっていたんですが、公表してなかったということがありますので、これは直ちにやらせていただければと思います。

また、オンラインで来田委員さんからも何点かありました。特に、一旦若い人たちが県から外へ出ていく。でも、結局、今の若い人たちがどんどん徳島に戻ってくるんですよね、こういうお話があって、じゃあ、その戻ってきやすい環境、これを作ったらどうだろうか。実は、コロナ禍でそれを徳島はやりました。一体、何だったのか。例えば東京の大学、東京の企業に就職をした。でもオンラインで、あるいは在宅勤務でということになって本社に来なくていい。3割の出勤だけ。あるいは大学もオンライン授業、大学に来なくていい。でも、高い生活費を払わなきゃならない。だったら、東京にいる意味がないじゃない。こうした意見だったんですね。

ということで、例えば徳島に戻ってくる場合の引っ越し代を50万円、あるいは大学をもう変えると、県内の大学に入り直すと、当然、入学金がまた要りますので、その入学金をこれでセットにという制度も作らせていただきました。さらには、全国の学生の皆さん方に徳島で就職をしてもらおうと。もともと国の制度というのは、徳島出身で県外に行った。あるいは徳島の大学でという人たちに対して、今、奨学金地獄という言葉が、若い人たちにあるんですね。奨学金のために働いて返すと。だから、有償の場合には半分、それから有利子の場合には3分の1、これを、もう国の制度はそういうことだったんですが、うちの場合にはもう、別に徳島で働いてくれるんだったらいいよということで、独自の制度を加えて、今いった奨学金の支援をする。ただし、条件、これは県内の企業に3年以上勤めること。というのは、今、離職の平均が3年なんですね。ということで、3年を超えていただいていた場合に対してはそうした支援をする。全国の皆さん、是非徳島へ、そして奨学金地獄、こうしたところを少しでも軽くしていただきたいと、こういう制度を導入しているところでもありますので、まずはこの点、ご紹介をさせていただければと思います。

それから、次に今度は三谷委員さんのほうから食糧安全保障、このお話をいただきました。ということで今、農業は大変な状況になっていますね。例えば肥料、全然、海外から入ってこなくなった。何といたってもロシア、白ロシア、つまりベラルーシ、それにウクライナが3大肥料供給地なんですね。入ってくるわけがないんです。非常に高騰していく。あるいは、今、施設園芸がどんどん増えている中でLPガス、これに対してのいわゆるセーフティネットがないんです。ということで、このLP、あるいは肥料に対してのセーフティネット、徳島独自の制度を作らせていただき、LPはまだ国の制度がないんですが、肥料についてはようやく国も重い腰を上げまして、さらに徳島の制度といったものを、国と上手く、ハイブリットにできるような日本にない制度、これを今、実行に移すこととなっているところでもあります。

次に山上委員のほうからコロナのさまざまなお話をご紹介いただきました。この中で、でもDX、この人材がないよというお話がありました。是非、リカレントということでのサポートセンターですね。あるいはさまざまな、今、e-とくしま推進財団と、また県内のさまざまなIT企業の皆さん方とで連携をしていただきまして、こうしたとくしまデジタル支援員、こうしたものの育成、あるいは私が校長を務めているシルバー大学校、あるいは大学院、この皆さん方のICTコース、この皆さん方にさまざまな民間資格を取っていただ

いて、この ICT サポーター、こうしたものにも今、なっただこうと進めているところでありまして、他県では高齢者の皆さん方を ICT 弱者ってなんだって呼ぶんですが、徳島の場合は非常に関心が高く、そして今、小学校でプログラミング教育、これが授業になっているところでありまして、シルバー大学校・大学院を卒業された皆さん方が実は活動を、小学校などでもしていただいております、そのご提案で、今年度から大学院の ICT コースを一つ変えまして、もう正面からプログラミング教育、これを覚えていただく、そして資格などを取っていただく、既にスタートしたところでもあります。

それから次に、今度は真鍋委員さんのほうから公共交通、新幹線、こうしたお話もありました。実はこの新幹線、今後、さまざまな公共交通の御意見をいただいた皆さん方にお返しをする分にもなるわけなんです、一番のポイント、これは今、北陸新幹線が大阪までのルートが決まったんですね。ただ、ここだけじゃ、実は足りない。ようやく日本全体でも気づき始めた。何が足りないのか。国際空港に高速交通が入っていない。交通というか、列車が入っていないのは先進国で日本だけなんです。例えばヒースローであっても、シャルルドゴールであっても、フランクフルトであっても、みんな、TGV などの新幹線が入っているんですね。ということで、この関空に新幹線を入れようということで、大阪まで来れば、大深度などを使って関空につなげると。今、これが大きく世論として動き出そうと。その大阪・関西万博、あの夢洲、そしてその跡地を、あるいはこれはほぼ決まってくる形になるんですね。となってくると、今後、関空から夢洲、夢洲からそうすると、次は淡路島。淡路島に入ってしまうとチェックメイトですね。大鳴門橋は新幹線併用橋となっておりますので、そうした意味で、我々としてはとにかく大阪・関西万博、これを契機として、世論として関空に新幹線を入れる。これをまず、何としても実現をする。こうすることによって新幹線の、先ほど歯染山委員さんが、私がおっしゃっていますが、実は必要性が高いんです。そして、リダンダンシーとしての横軸、山陽新幹線 1 本では首都直下、あるいは南海トラフが起こった時はとてもとても心許ない。九州が孤立してしまいますので、そうした意味ではこの横軸ルート、必ずやできあがってくるものと。

今までもだいぶ、いろんな関西空港の連携とか、こうした話もいつてきた。というのは、関空に今、3 本目の滑走路を造ろうとしているんですね。ただ、それには 2 兆円かかるんです。しかも関空、沈む空港でジャッキアップしているんですよね。またジャッキアップする、維持管理のかかるものを造るんだったら、早く新幹線を作って、その半分のお金、以下でもできると思うんですが、少なくとも鳴門まで新幹線を通してしまえば阿波おどり空港が同じ制空域になっているんですね、大阪湾、ベイエリア。ということで、3 番目の滑走路に 2,500 メーターの滑走路、直ちに使うことができるようになる。こうした点も今、強く言っているところでもありますので、是非、皆様方におかれましても、大きなターニングポイントが大阪・関西万博になる、こうした点を、是非ご理解いただければと思います。

そして、松崎委員のほうから木のおもちゃ美術館のご紹介をいただいたところでもあります。ここは、子どもさんたちにとっていたところが、実は若い皆さん、中高生の皆さん

方まで、非常に多くの皆さん方にお越しをいただいているんですね。コロナ禍で入場制限をかけたにもかかわらず、目標の10万人を遥かに超えた状況と、今、なっているところがあります。そして今、日本全体で、今回の那賀町にできあがるものを含めておもちゃ美術館が全部で10、あるわけなんです、その中で最大のもの。しかも県立はここが唯一、あすたむらんど20周年を記念して実は造らせていただきました。というのは、あすたむらんどをオープンした時の商工労働部長は私ということもありましてね。やはり子どもさんから中高年の皆さん方まで集う。そして、何よりも木の文化、これをしっかりと。例えば遊山箱であるとか、多くの木のおもちゃ、こうしたものがあの中にはたくさんありますし、人形浄瑠璃の舞台もご用意し、この間は川内の中学校の皆さん、あるいは城北高校の皆さん方に、ちょうど1周年を記念して、人形浄瑠璃の舞台、お子さんたち、ご家族連れに見ていただいたんですね。こうした形で、是非、しっかりと新たな文化、これも発信していきたいと思います。

それから今度、次に近森さんからいただいた点であります。ここでは、誰一人取り残されないということでDX社会、このお話をいただきました。我々としては、実は徳島、早い段階から、そのDXという言葉の前、つまりIT、ICT、あるいはインターネット、こうした時に、時間と、それから距離を超越するものがこれなんだと、いつでも、どこでも、誰でも。そのネットの向こう側は日本ではない、世界だと、このようにずっといい続けてきて、そして最初に光ブロードバンド環境、これも地上デジタル放送で10チャンネル見れていたのが3チャンネルしか見られなくなる。これは大変だと。ケーブルテレビで全県、東西祖谷、宍喰までつなぎ、しかも後発の利でこれが光ファイバーとなったところなんです。そして、これを活用して、今では5G、その先進エリアと、今、なろうとしているところでもありますので、我々としては先ほど、林委員におっしゃっていただいたeスポーツもそうではありますが、こうしたものをきっちり。そうすることによって今、若い皆さん方が、また先ほど渡邊委員さんがしずくプロジェクトのお話でも出たように神山ですね。こうしたところの通信環境、これがいいが故に、第1号のサテライトオフィス、これが寺田社長さん、Sansan。で、寺田社長さんを中心として神山まるごと高専、これができあがり、そして全国からも大変注目を受けているところでもありますので、しっかりとこうした、これからはDX、あるいは誰一人取り残されないDX社会の構築、日本モデルとして進めていくことができると、このように考えております。

そして次に齒染山委員さんからいくつかいただいております。まずは既存の公共交通機関、これを何とか守らなければいけない、こういうお話をいただきました。ということで、実は、最初は私、国鉄改革を自治省の時にやりましたので、もともとJR四国、北海道、九州、独立・独自では採算が合わない。ということで税制、あるいは財政支援という形での三島特例、そのエリアにしていたんですね。ところが九州は新幹線ができた。ただ、新幹線の上がりです。黒字になったんじゃないんです。新幹線ができることによって福岡の地価が上がったんですね。これによってホテル経営、マンション経営、こうしたもので大きく黒字がありました。そして、JR九州はこの三島特例から抜け、そして黒字会社として株式会

社化、公開という形になっていったんですね。

ということで今、厳しいのが北海道と四国。北海道は既に、半分の路線の廃線が決まっています。バス転換ということですね。それと DMV の技術を放棄したということで、我々、JR 四国、徳島、高知、阿佐東線でこれをもらい受けるという形を取らせていただきました。ということで、最初の中から牟岐線は危ないと私は思っていたんです。知事就任以降、とにかく牟岐線、この活性化をしなければいけないということで、公共交通機関、今では国が、国やさまざまな市町村の公共交通機関も入れる委員会を作ってくれ、このようにいわれているんですが、徳島はもう既にできて、そこからさまざまな提言、これをいただいているんですね。

まず牟岐線には四国初のものを導入しました。これは徳島駅発の列車、時刻表を見ていただくとわかりやすいんですが、00、30。高齢者の人も覚えやすいということで、南小松島駅、ここに路線バスをつなげやすくなったんですね。集中することによって利便性が高くなるということで、路線バスも JR も乗降客が増えました。しかし、パターンダイヤを入れたことによって阿南から南の列車が減ったんですね。学生さんたちは困るということで、並行して走っている、実は徳島バス、甲浦まで行っているんですが、そこから神戸、大阪に行く。甲浦から本来、阿南までは降りられないんです、乗ることはできるんですけど。そこを降ろしてくれということで頼んで、金原社長さんのほうにお願いをしたところ、どうぞ、学生さん、乗ってくださいと。これによって、JR と合わせると、阿南から南、本数が増えたんです。

ただ、問題がありました。JR の定期で高速バスに乗れないんです。あるいは初乗り料金をまた取られる。何とかならないか、直接、学生さんからいわれました、高校生から。そこで、今度は徳島でもって、四国 4 県の知事と JR が集まって、JR 四国をどうしていくかと、その懇談会があった時に、ちょうど徳島ご出身の半井社長さん、それで、この提言をしました。これ、何とかならないかと。そうしたところ、両社で話をさせていただいて、ここで日本初ができあがります。つまり、同じ並行して走っているところ、本来はそこが手を組むと独禁法違反なんですね、料金がカルテルになる。ところが、そもそも成り立たないところについては OK、独占禁止法初の特例がここに導入されて、JR の定期で乗ることができる。あるいは初乗りがなしと、共同経営ということがここにできあがったんですね。それで、ご存知のように世界初、そこから先の阿佐東線、これに DMV を入れるということになり、今、インバウンドでは海外から、特にアメリカの皆さん方から熱い視線を。アメリカの人が好きなのは二刀流、SHOW TIME と DMV ということになっておりまして、こうすることによって、何としても阿佐東線を守りたい、牟岐線を守る。

その意味で、先ほど、新駅の話も今、決してホールのためにあれを造るわけではないんですね。向かいに徳島市役所が、徳島税務署が、駐車場がないのでアスティとくしまでいつも確定申告をやっていますよね。そういったところに公共交通で。あるいは、反対側には中央署、裁判所。そして本町交差点、あそこには城東高校、あるいは放送会館。少し行くと新蔵の合同庁舎。多くの定期客が望まれる。これによって多くの、いわゆる赤字の部分

を補ってほしい。これによって存続をさせる。実は、かつて徳島商工会議所からご提案があって、北矢三に駅を作ってくれというのがあったんですね。難しい、高架区間でということがあって沙汰やみになったんですが、実は、北矢三にもし駅があったら、城北高校が真向いなんです。そして、田宮街道を走っていくと、今度は科学技術高校、その向かいには障がい者交流プラザ。多くの皆さん方の利便性が高くなる。ということで、四国4県の中で、いわゆる路面電車が無いのは徳島だけなんですね。少し徳島駅から距離が近すぎるじゃないか。ところが、路面電車は200メートル先ですよ。見えるからみんな、どんどん乗るわけなんですね。だから、本当は富山でもLRT、これも路面電車をあえて造った。でも、うちの場合には牟岐線、高德線、あるいは徳島本線があるわけですので、こうしたものを上手く、そして今後、そうしたところに新駅を造っていくことによって、多くの皆さん方の足を確保していく。そことバスとの連携をしていく。

あるいは、先ほど、中山間地域の例として近藤委員さんに言っていただいたラストワンマイル、有償運送なども活用する。あるいは規制緩和を行うことによってスクールバス、あるいはホテル、旅館のバス、こうした、本来そこしか使えないものを、規制緩和で使っていない時間帯、AIを上手く活用することによってこれを組み込んでいく。こうすることも可能となって参りますので、こうした点、さまざまな点を加えて新たな足の確保をしっかりとしていければと思っております。

また、唐崎委員のほうから足元の、いわゆる民俗芸能、これをしっかりと評価すべきだとお話がありました。そして我々も取組んできた、例えば西祖谷の神代踊をはじめとする41件の、これをまとめて国では風流踊という話になっておりますが、ちょうど今日、うれしい話が入って参りました。ユネスコの評価機関のほうから、これは日本がユネスコに、令和2年の3月に実は申請をしていたんですが、是非、申請するよという形が参りまして、11月、国の機関に、ユネスコの政府間の協議、ここを整えば、徳島初のいわゆるユネスコ無形文化遺産登録ということになって参りますので、その意味では41件でも、場合によっては審査でそこから外されちゃうことがあるので、そうならないような形をしっかりと取っていければと、このように考えております。

渡邊委員さんのほうからも鳥獣害、あるいは治安の悪化、あるいは公共交通のお話をいただきました。これらにつきましては、先ほど申し上げたような形でしっかりと足を確保する。

また鳥獣害対策、この山の問題、林業、しずくプロジェクトをやっているため、こちら、榊野委員さんからも先ほどお話があったように、実は平成17年度からの5次にわたる林業プロジェクト、今はスマート林業プロジェクトとなっておりますが、これによって、例えば林業アカデミー、今、実は卒業生の有効求人倍率が3倍以上になっている。ということで、いよいよ今度、今、募集をしている生徒の皆さんは、初の30名を募集しよう。最初は10名からスタートしたんですけどね。こうすることによって、実は第一次産業、農業、あるいは水産業、従事者の皆さん方が減少する。平均年齢が65歳を超える。これが日本なんですね。しかし、徳島の林業は今、真逆になっていまして、数がV字にな

るとともに、平均年齢がとうとう 51 歳、もう間もなく 40 代に突入していこうと、こういうことで、全国から多くの若手が、そして、今やほとんど林業は与作の時代ではなくて、機械化の時代になって参りましたので、我々としてもしっかりと地球温暖化対策、これにも資するというで進めていければと考えております。

ということで、今日、多くの皆様方からさまざまなご提言をいただいたところでありまして、しっかりと今回のこの計画の中に打ち込むとともに、今、それぞれの施策の一端、今、進めているものがたくさんありますので、こうしたものをさらに加速をしていくことができると考えておりますので、どうぞ、山中会長さんをはじめ、皆様方、よろしくお願いを申し上げます。以上です。

(山中会長)

知事、ありがとうございました。すばらしいフィードバックをいただきました。

ちょっと時間が過ぎてしまいましたけれども、この意見交換を終了させていただきたいと思えます。私から一つだけ感想を申し上げますと、いろんな御意見をいただいているんですが、知事がおっしゃっていたカーボンニュートラルという概念ですね。この概念が、実は海外にはいっぱい出てきていますけれども、実感としてはなかなか皆さん、感じておられない。多分、おっしゃっているのは、ここから出てくるのは、企業側にこの必要性が今度、出てくると思えますので、企業の方のビジネスをちょっとヒアリングしていただくと、その重要さというのが出てくるんじゃないかなと。ちょっとその部分を追加していただこうかなと感じました。

副会長さん、よろしいですか。すみません、いつもこんな感じで。

それでは、時間が参りましたので、この辺りで意見交換を終了したいと思います。今後、県においては、委員の皆さんにいただいた貴重な意見、それから、県議会等での御議論を十分検討いただいて、新たな総合計画にできる限り反映していただくようお願いをいたします。

最後に、事務局から連絡事項がございます。よろしくお願いいたします。

<事務局説明>

- ・会議録の公表について、事務局で取りまとめた上、発言された委員に確認を頂いてから、発言者名も入れて公開したい。

以上